

火遊びは絶対にしません!



秋の全国火災予防運動にあわせて、11月10日、関保育園の園児が法被姿にまといを持って、鼓笛隊の演奏に合わせて火の用心を呼びかけました。同保育園を出発した園児たちは、本町通りを「火の用

心の歌」に合わせて拍子木をたたきながら元気よく行進。園児たちは「火遊びはしません」「火事を見たら大声で知らせる」などと全員で防火の誓いをしました。

あんな事、こんな事



ゆず香漂う上之保の里

今年も上之保特産のゆずの収穫が行われました。この地域では約350戸の農家が無農薬でゆずを育てており、今年は約10トンの収穫を見込んでいます。収穫されたゆずは選別、出荷され、加工品の材料や和菓子、ジュースなどになります。上之保温泉ほほえみの湯では、毎週金曜・日曜に上之保産ゆずを使ったゆず湯のサービスも始まりました。ぜひ、ご利用ください。

収穫の喜びを体験

洞戸の特産品、キウイフルーツの収穫が11月初旬から始まり、洞戸小学校3年生が収穫を体験しました。学校近くのキウイ畑にはたわわに実ったキウイがぶら下がり、児童たちは一斉に畑に入って収穫開始。背伸びをして手をいっぱい伸ばし、一つずつ丁寧に収穫していきました。今年は受粉の時期に晴天が続いたため、大きな実がたくさんっており豊作とのこと。





手塩に掛けたお米を献納

10月29日に皇居で行われた新嘗祭献穀献納式で米を献上した川村坦さん夫妻（西田原）が、尾藤市長を訪問しました。川村さんは収穫したコシヒカリの中から献上用に一粒ずつ手作業で選別し、作業には5人がかりで半日かかったそうです。献上された米は、11月23日に皇居で行われた新嘗祭に供えられました。

せきの魅力を満喫

11月16日、市役所市民広場で第3回わかさまつりが開催され、雨天にもかかわらず多くの市民でにぎわいました。ステージイベントなどは場所を庁舎内に変更して開催。アマチュアバンドやダンスの披露などが行われました。市民広場では魚を放った池において鵜匠による鵜飼の実演が行われ、鵜が魚を捕らえる姿を間近に見た市民からは感嘆の声が挙がっていました。



80歳でも20本の自分の歯で

11月8日の「いい歯の日」にちなんで、80歳以上で20本以上の自分の歯を持つお年寄りの表彰式が行われました。8020運動（80歳以上で20本以上の歯を持つ）の一環で、歯科医から推薦のあった148人に表彰状が贈られ、最高齢の小田為二郎さん（93歳）は、「丈夫な歯を親からいただき感謝しています。朝晩歯磨きをするよう心がけています」と普段の生活ぶりを話してくれました。

長年の功績をたたえて

21年もの長年にわたり保護司として更正保護分野で活躍された功績がたたえられ、足立勝さん（小瀬）が法務大臣から表彰され、尾藤市長へ受賞の報告をしました。市長からのねぎらいに足立さんは「家族の支えと先輩方の指導によってここまで来られた」と感謝されるとともに「更正しようと真面目に通って来てくれる人を何とか社会の役に立たせたい」と話しました。



こぼれ話



毎年11月になると取材に出掛けるのが、洞戸特産のキウイフルーツの収穫の様子です。JAめぐみの洞戸キウイフルーツ生産部会長の神山三郎さんに連絡を取り、神山さんの畑におじゃまして写真を撮らせていただいています。3年ほど前のこと。取材の後、雑談の中で「何か、洞戸ならではのキウイの変った食べ方なんて、ないですか」と聞くと、「うん、ウチはすき焼きにキウイを入れるぞ」と驚きの証言が…。

神山さんいわく、何でもスライスしたキウイですき焼きのお肉を挟んでおくと、肉がとておいしく、そして柔らかく変わるとのこと。テレビの取材もやってきて実際にすき焼きを披露したこともあるそうです。さすが、キウイの産地だけあって面白いお話も聞けるもんだと実感しました。広い関市、食の文化もさまざま、まだまだ変わった料理や食材が見つかりそうです。ぜひ、一度広報などでも取り上げてみたいと思います。皆さんの情報提供をお待ちしています。